

令和元年5月14日開催

調 査

経済福祉常任委員会資料

○調査事件1 前浜の天然資源の状況について

産業課（水産係）

○調査事件 1 前浜の天然資源の状況について

各項目（魚種）における内容は、漁業協同組合が事業主体となり、水産普及指導所、町が協力して行った調査報告書によるものです。

1 エゾアワビについて

(1) 調査目的について

エゾアワビ漁業は、平成15年から17年と19年の4年間の禁漁の後平成18年から再開されているが、平成27年の1.2トンピークに減少傾向にある。

エゾアワビの調査は、人工種苗の混入率を把握し資源の有効利用を図ることを目的とし調査を行っています。

(2) 調査方法について

吉岡地区4か所（松浦、吉野、館崎、宮歌）から漁獲されたアワビ30個体を無差別に抽出し、殻表面の付着物を除去し1歳までの殻色から人工種苗の判断をおこなった。

漁獲量の推定は、当日の水揚げデータにより地区別、漁業者別の集計を行い、平成29年度までの単位漁獲量（漁獲量／着業者数）の平均値を100として資源水準指数を算出しました。

(3) 結果について（吉岡地区）

漁獲物に対する人工種苗の割合は吉野地区で16.7%と最も多かったが調査区全体では10%で昨年の16.7%より減少した。

資源量については、平成30年度3日間の操業で、214kg推定個数であり平成29年度275kgの3割の減で、平成29年度を100とした場合資源水準指数は63.7となり低水準に落ち込み資源減少傾向となっています。

(4) 過去5年間のアワビ漁獲量の推移（漁協全体）

単位：kg

漁法	H26	H27	H28	H29	H30
一般	670	2,231	1,020	550	432
ダイバー	360	3,133	832	304	369
合計	1,030	5,364	1,852	854	801

※資料：漁協業務報告より

2 岩部地区キタムラサキウニについて

(1) 調査目的について

岩部地区（女郎崎から岩部漁港）で多数みられるキタムラサキウニの生息状況を及び殻径、年齢を調査し、今後の有効利用のための基礎資料とすることを目的とし、平成15年度に調査を行いました。

(2) 調査方法について

女郎崎から岩部漁港までの間に、等間隔になるように200mライン4本を波打ち際から沖方向に設置し、10mごとの水深、底質及びキタムラサキウニの計数を行った。また、50mごとに1㎡のキタムラサキウニの採取を行いました。

(3) 調査結果について

①生息状況について

全体的に離岸20mまではキタムラサキウニの生息密度は少なく、離岸20mから120mでは全体平均の7.8個体/㎡より高い（最大18個体/㎡：離岸90m地点）生息密度となっていました。

②殻径について

調査ライン全体では、10mmから80mmの個体が確認され、平均として45.2mm、55mmから60mmが14.1%、50mm以上は36.9%でした。

③年齢について

肛門周囲の生殖版により年齢査定によると、0から14齢の個体が確認されました。

(4) 推定資源量について

調査区域を沿岸650mと離岸200mとし面積130,000㎡から、底質調査結果による砂地割合27.6% (35,880㎡)を除いた94,120㎡を生息面積とした。

調査ライン平均生息数は7.8個体となることから、生息可能面積を乗じて734,136個体、平均重量63.4gとした場合、女郎崎から岩部漁港までの間には46.5トンの生息が推定されました。

(5) 過去5年間のウニ漁獲量の推移（漁協全体）

単位：トン

漁法	H26	H27	H28	H29	H30
ウニ漁業	56	96	102	85	82
内キタムラサキウニ	55	77	95	84	79
ダイバー	6	12	15	12	17

※ダイバーはキタムラサキウニの内数 ※資料：漁協業務報告より

(6) その他について

平成30年度、浦和漁港以東から漁業者によるキタムラサキウニの移植数量は、両地区約120名の漁業者により、福島地区約3トン、吉岡地区約1トンの移植を行っております。

3 ナマコについて

(1) 調査目的について

調査各放流箇所については重ねて放流しているため資源量の推定は行わず、各調査ラインの生息密度と標準体長及び重量の調査を行いました。

(2) 調査方法について

白符漁港では、25年、26年、27年の放流箇所について調査を行いました。25年放流箇所については、休憩岸壁沿いに50mの調査ラインを敷き1m幅で10m毎のナマコの採取を行いました。

26年、27年放流箇所については、その周囲を1㎡の枠取り調査5か所を行いました。

①25年放流群について

測定数128個体、平均標準体長129.2mm（放流時18.4mm）体重56.4g（放流時0.15g）でした。

②26年放流群について

測定数11個体、平均標準体長175.9mm（放流時16.37mm）体重144.7g（放流時0.125g）でした。

③27年放流群について

測定数9個体、平均標準体長152.5mm（放流時19.28mm）体重83.8g（放流時0.146g）でした。

(5) 過去5年間のナマコ漁獲量の推移（漁協全体）

単位：kg

漁法	H26	H27	H28	H29	H30
一般	2,590	3,489	4,554	2,299	1,295
ダイバー				691	353
合計	2,590	3,489	4,554	2,990	1,648

※資料：漁協業務報告より

※H26からH28について業務報告上漁法の区分なし